

議案第1号

令和4年度 社会福祉法人江府町社会福祉協議会 事業報告書

令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症は猛威を振るい、様々な制限の中、注意を払いながらの活動を強いられる状況は続きました。

このような状況下においても、江府町社会福祉協議会では、人と人とのつながりを絶やすことがないように、令和4年度からスタートした「地域福祉活動計画」に基づき、コロナ感染予防対策を講じながら、地域福祉活動に取り組みました。

具体的な事業の取り組みについては、以下のとおり報告いたします。

■重点事項

1 みんなで支えあう地域と人づくり

施 策	実施計画	事業内容	実施状況
地域の福祉意識の醸成と福祉活動への参加促進	福祉座談会の開催	集落に出向き、社協の事業周知と、地域の課題等についての意見交換を行います。	・コロナ感染拡大防止のため、中止しました。
	福祉大会の開催	町民全員を対象に開催。地域福祉をテーマにした講演会等の開催します。	
	広報活動による情報発信	様々な媒体を通して、社協活動の周知と地域福祉活動を掲載します。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報「社協だより」を発行しました。(3回) ・ホームページに、現況報告書・財務状況・事業計画等を掲載しました。 ・地域福祉活動計画(概要版)を全戸配布しました。
	評価と課題	町民の福祉への意欲を高めるために、今後は広報誌に加え、目に触れやすい媒体(ホームページやSNS)を活用した情報発信に取り組んでいきます。また、中止していた座談会や福祉大会などの、対面での行事にも取り組みます。	

地域のリーダーや福祉に関わる人材の育成	ほっとサロンの開催	<p>集落単位で開催。支え愛マップづくり等を通して我がまちの地域福祉についての関心を高めます。また、新型コロナウイルス感染予防のために、自粛していた集落活動がスムーズに再開できるよう、サロンの開催をはたらきかけ、気軽に地域で集える活動のバックアップを行います。</p>	<p>・コロナ予防に努めながら、希望集落で実施しました。 軽体操、脳トレ、集落内の地図を見ながら、見守りや防災についての情報交換などを行いました。</p> <p>実施集落:11集落 延参加者:98名</p>
	評価と課題	<p>R3年度は3集落でしたが、今年度は積極的な声掛けにより、実施集落は増加しました。案内は全集落に行ったものの、老人クラブのない集落からの希望はわずかでした。集落単位での実施に拘らず、広域での実施や集まりやすい時間帯の実施についても検討します。</p>	
福祉教育の推進	福祉教育推進校の指定	<p>福祉の心を育てる教育を推進するため、義務教育学校を推進校として指定します。</p>	<p>・奥大山江府学園を「福祉教育推進校」として、指定。赤い羽根共同募金の助成を受け、5万円の活動助成を行いました。</p>
	福祉体験学習の実施	<p>地域住民とのふれあいを通して身近な地域に愛着を持ち、福祉の心を育む福祉体験学習の実施します。</p>	<p>・5年生の「ふるさと魅力発信科」のプログラムにおいて、地域で暮らす高齢者、障がい者への理解を深める授業に参加しました。</p>
	評価と課題	<p>奥大山江府学園がスタートし、年間を通じた学習に参加し地域福祉についての理解を深める機会が作られました。今後も継続して関わり、また、助成金についても効果的に活用してもらえるよう情報交換や、活動の連携を深めていきます。</p>	

2 地域福祉を支えるネットワークづくり

施策	実施計画	事業内容	実施状況
住民相互の支えあい活動の推進	愛の輪協力員の推進	概ね70歳以上の独居高齢者の見守りを近隣住民に委嘱。地域で住民同士が支えあう仕組みをつくれます。	・協力員の推薦に民生委員の協力を得ました。 協力員:55名 対象者:61名 ※3月末
地域福祉関係団体の連携強化	見守り支援会議の定期開催	関係機関と定期的な情報共有の場を持ちます。	・見守り連絡会 (包括支援センター) ・支援調整会議 (福祉事務所) 月1回開催しました。
ボランティア活動の推進	ボランティアセンターの運営	住民のボランティアに対する理解と関心を深める活動を行います。 ボランティア活動について、住民に広く周知します。	・まちなかサロン、ひとり暮らし高齢者のつどい、こどもサロン、配食サービス、食事づくり、フードサポート事業にボランティアの協力がありました。 Vo登録者:47名 延活動者:625名
	ボランティア研修会の開催	ボランティアを始めたい人やボランティア活動中の人に対して研修会の開催します。	・コロナ感染拡大予防のため、中止しました。
	評価と課題	定期的な行事へのボランティア協力が主で、個人からのボランティア依頼はありませんでした。配食サービスの利用者の減により、配食ボランティアの活動回数も減少傾向にあります。	

3 みんなが自分らしく暮らしていける支援体制づくり

施策	実施計画	事業内容	実施状況
福祉ニーズの把握	座談会やほっとサロンを通じた課題把握	集落に出向き、人や地域の困りごとを把握し、早期解決につなげます。	<ul style="list-style-type: none"> ・3人の専門職員による個別訪問や、ほっとサロン等で集落の様子や困りごとなどを聞きました。 ・対応が必要な状況の場合は、生活支援コーディネーターや包括支援センターとも共有し、支援方策を検討しました。
	要支援者へのニーズ調査	見守り訪問やサロン活動等で住民の困りごとや課題を聞き取りを行います。	
包括的な支援体制の整備	関係機関、団体との連携	関係機関との情報の共有、連携を行い、必要な支援が途絶えないようにします。	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り連絡会（包括支援センター） ・支援調整会議（福祉事務所） 各月1回開催しました。
	相談体制の充実	訪問や来所による相談、電話相談等による相談窓口の機能を充実させるとともに、あらゆる相談を受け止め、適切な支援につなげます。	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問による声掛けや広報、ホームページ等により、社協の相談窓口機能の周知に努めました。
情報提供・相談体制の充実	生活困窮者自立支援事業の実施（※）	生活困窮状態にある世帯に対して、就労・家計支援等の助言を行います。	相談者:11件 内プラン件数:6件
	日常生活自立支援事業の実施（※）	判断能力が不十分な者への福祉サービスの利用支援や日常的金銭管理等の支援を行います。	契約件数:3件 高齢:1件 精神:1件 その他:1件
	法人成年後見事業の受任	法人成年後見事業を「権利擁護ネットワークほうき」の会員として実施します。	受任件数:5件 成年後見:3件 保佐:2件
	生活福祉資金貸付事業の実施（※）	低所得世帯等に対して生活維持のために必要な資金の貸付を行います。	一般貸付:3件 緊急小口:7件 特例総合支援:5件 ※R4年度は新規なし

<p>生計困難者に対する相談支援事業 (えんくるり事業) の推進</p>	<p>県内の社会福祉法人が協働して生計困難者に対する支援事業を行います。</p> <p>※社会福祉法人における「地域における公益的な取組み」</p>	<p>利用者:3人 延利用件数:4件</p> <p>利用内訳 ①炊飯器 (12,800円) ②燃料費 (2,975円) ③食費・介護用品 ・移送サービス費用 (28,936円) ④電気代 (17,941円)</p>
<p>フードサポート事業の実施</p>	<p>一時的に食料の確保の困っている世帯に対して、緊急的に食料等を支援します。 食材の提供者を募り、地域住民が互いに助け合う仕組みづくりを行います。</p>	<p>利用世帯:10世帯 延利用回数:27回 提供者:13件 (個人11団体2)</p>
<p>評価と課題</p>	<p>複合的な課題を抱えた者に対し、専門職員が課題の把握、相談支援を行いました。多機関の連携が必要なケースや、債務整理等で専門機関へのつながりが必要なケースも増えています。 解決に至らず、継続して支援が必要な世帯が多いものの、自立支援を目標に、信頼関係を築きながら粘り強く支援を継続しています。課題が大きくならないうちのアウトリーチの体制づくりも必要であると考えます。</p>	

(※)委託事業

4 安心安全で健康に暮らせる地域づくり

施策	実施計画	事業内容	実施状況
<p>安全安心な地域づくり</p>	<p>福祉有償運送サービス事業の実施</p>	<p>公共交通機関の利用が困難な者の移動手段として車いす仕様の車輛を運行します。</p>	<p>実利用者数:7名 延利用回数:18回</p>

<p>配食サービス事業の実施</p>	<p>75才以上の独居、高齢者世帯に昼食弁当を配食します。食事の提供だけでなく、安否の確認も行います。</p>	<p>【生活支援型】 実施日：月～金曜日 延利用者：75名 延食数：844食 配食Vo：259名</p> <p>【ふれあい型】 実施日：月2回(水曜) 延利用者：100名 延食数：167食</p>
<p>買物支援サービス事業の実施</p>	<p>日常的に買物に不便を感じている概ね65歳以上の高齢者のみの世帯に対し、買物のための移動を支援します。</p>	<p>実施回数：36回 延利用者数：64名</p> <p>※社会福祉法人における「地域における公益的な取り組み」</p>
<p>こどもサロンの実施</p>	<p>義務教育学校(前期課程)の振替休業日に地域で子どもを見守る取り組みとして実施します。(対象1～5年生)</p>	<p>実施回数：4回 参加児童：121名 Vo数：46名</p> <p>①4/25 ニュースポーツ創作活動 参加者：47名 Vo：7名</p> <p>②9/12 ものづくり・ゲーム 参加者：17名 Vo：8名</p> <p>③10/31 防災教室 焼き芋づくり 参加者：28名 Vo：18名</p> <p>④11/21 お菓子づくり ものづくり 参加者：29名 Vo：13名</p>
<p>評価と課題</p>	<p>福祉有償運送、買い物支援サービスは、年間を通して定期的な利用者があり、在宅生活に必要なサービスとして定着しています。 こどもサロンは、スタッフの大半がボランティアの協力により実施できているため、今後も参加者が安全に過ごすことができるよう、多くのスタッフの確保が課題となっています。 配食サービスは、利用者が徐々に減少しています。住民のニーズや、サービス内容についての評価・検討が必要となっています。</p>	

健康づくり・介護予防事業の充実・強化	まちなかサロンの実施	転倒予防、認知症予防を目的として、機能活性化のプログラムを交えたサロンを定期的実施します。(毎週火曜日。うち1回は臨床美術講座)	登録者:7名(3月末) 実施回数:46回 延参加者:288名 Vo数:74名
	俣野いこい広場の実施	俣野地域の住民の居場所づくりを推進し、認知症予防や住民の交流の場として実施します。個別の課題の発見にも努めます。	・月1回(第4木曜) 実施回数:11回 延参加者:219名 Vo数:73名
	オレンジカフェの実施		・週1回(毎週木曜) *第4木曜はのぞく 実施回数:35回 延参加者:367名 Vo数:151名
	ひとり暮らし高齢者のつどいの実施	概ね75歳以上の1人暮らし高齢者を対象に閉じこもり予防、孤独感の解消などを目的として実施します。	・月1回(第2金曜) 実施回数:12回 延参加者:86名 運営Vo:11名 調理Vo:53名
	神奈川交流サロンの利用促進	地域で気軽に立ち寄れる居場所として施設を開放し、近隣住民の交流や生きがいづくりを支援します。	・原則 月～金曜日に開館 延利用者数:222名
	評価と課題	<p>コロナ禍においても、予防に努めながら実施しました。定期的に脳トレや体操、臨床美術等を実施しているため、認知症予防の効果が感じられます。また、対面で人と人がふれあうことで、生きがいづくり、生活の楽しみの場となっています。</p> <p>ひとり暮らし高齢者のつどいの参加者は固定化しており、徐々に少なくなってきたため、今後は事業の在り方についても検討していきます。</p> <p>神奈川交流サロンは、地域のグループで週1回自主的なサロン活動に活用されました。令和5年度には、建物の改修が予定されており、誰でも自由に立ち寄れる交流施設として、活用方法を検討します。(令和5年6月～改修のため休館予定)</p>	

災害時・緊急時の支援体制の整備	支え愛マップの作成	ほっとサロン等で支え愛マップづくりを行い、集落の状況を知り、平時にも災害時にも住民同士で助け合える体制を整備する。	・ほっとサロン実施集落のうち、マップづくりを希望された集落で行いました。 (2集落:本町一・新町一)
	災害ボランティア等の体制整備	災害ボランティア活動支援マニュアルに基づいた支援体制の整備を、行政や関係機関との連携のもと行う。	・災害ボランティアセンター設置のための協議検討を町と行いました。
	評価と課題	課題となっている災害ボランティアセンター協定の整備について、行政との協議検討を行い、災害時にボランティアセンターの機能を果たしていくための、平時からの行政との連携強化について検討していきます。	

5 社会福祉協議会の組織体制の充実・強化

施策	実施計画	事業内容	実施状況
社会福祉協議会の組織体制の充実・強化	住民組織としての推進体制・運営基盤の強化	地域住民組織としての社会福祉協議会の役割とあり方についてを周知し、理解を深めてもらう。	・広報で社会福祉協議会の活動を周知しました。 ・会員制度の周知と会費の依頼をチラシにて配布しました。
	財政基盤の強化	公的・民間助成金を積極的に活用し、事業推進を図る。 江府町共同募金委員会として共同募金事業への積極的な取り組みを推進することおよび、募金の助成金の効果的活用方法について検討する。	・各種助成金を活用し、地域福祉活動に充当しました。 (さわやか福祉基金・共同募金)
	職員体制の整備	各種事業を充実実施するにあたり、資質向上のための研修及び、必要な人材の確保を行う。	・コロナ感染予防のため、オンラインの研修に積極的に参加しました。

<p>各種団体の運営</p>	<p>社協が担う福祉団体の継続的な支援を行う。各団体の課題や強みを集約・整理し地域福祉課題に反映させる。</p>	<p>・団体の運営支援を行いました。</p> <p>老人クラブ 身体障害者福祉協会 遺族会 シルバー人材センター</p>
<p>評価と課題</p>	<p>新型コロナウイルス予防のため、対面で住民との情報交換や、社会福祉協議会の活動周知を行う場面が限られました。 次年度は座談会や福祉大会など、住民と直接触れ合える機会をつくり、地域福祉活動を推進していきます。</p>	